

「戦争」を考える本



「戦禍の記憶」  
～大石芳野写真集～  
Ravages of War  
大石 芳野／著



「THE LAST GIRL」  
～イスラム国に囚われ、  
闘い続ける女性の物語～  
ナディア・ムラド／著  
ジェナ・クラジエスキ／著  
吉井 智津／訳



「紛争地の看護師」  
白川 優子／著

戦争の悲惨な傷痕に今なお苦しむ声なき民に向きあい、平和の尊さを問いつづける大石芳野。約40年にわたり、戦争の犠牲となった人々を取材し、いつまでも消えない戦禍の傷にレンズを向けたモノクロ写真160点を収録する。

大石芳野（おおいし よしの）氏は、写真家。土門拳賞、エーボン女性大賞など受賞。紫綬褒章受賞。著書に「沖縄に生きる」など。

貧しくも平和な村での暮らし。しかし、イスラム国の脅威は次第に強まり、虐殺と収奪の日々が訪れ…。戦下における武器としての性暴力の根絶に尽力し、2018年ノーベル平和賞を受賞した著者が、自身の壮絶な経験を物語る。

ナディア・ムラド氏は、人権活動家。2018年「戦争および紛争下において、武器としての性暴力を根絶するために尽力したこと」によりノーベル平和賞受賞。

悲しみ、憎しみ、恐怖。すべて見た。こみあげる怒り。それでも信じたい人間の強さ。イラク、シリア、パレスチナなど紛争地を中心に、これまで17回の派遣に応じてきた、「国境なき医師団」看護師が生と死の極限を綴る。

白川優子（しらかわゆうこ）氏は、1973年埼玉県出身。日本とオーストラリアで看護師の経験を積み、2010年に「国境なき医師団」に初参加。シリア、イエメン、イラクなどの派遣に応じてきた。

8月の催しもの

とき	催しもの
毎週月曜日 午前11時～	あかちゃん絵本 よみきかせ会
毎週木曜日 午前10時～ 午後0時30分	あかちゃんクラブ ラッコルーム
毎週土曜日 午前11時～	「おはなし」と 「あそび」の広場
4日（日） 午後1時～ 午後3時～	「夏休み工作教室」 かわいい帽子の ブローチづくり
18日（日） 午前11時～ 午後2時～	子どもビデオ劇場
24日（土） 午後3時～	世界のお話しひろば 「ペルー」
25日（日） 午前11時～ 午後1時～	カイコ ふれあい たいけん教室

- ◆展示会 ・扶桑町平和事業 ヒロシマナガサキ原爆ポスター展（総務課）8/1～15
- ・扶桑町とカイコ展 8/17～9/1

その他の本

- ◆「アンネ・フランクに会いに行く」 谷口 長世／著
- ◆「内戦の地に生きる～フォトグラファーが見た「いのち」～」 橋本 昇／著
- ◆「ジャーニー国境をこえて」 フランチェスカ・サンナ／作  
青山 真知子／訳
- ◆「シャティエラの記憶～パレスチナ難民キャンプの70年～」 川上 泰徳／著
- ◆「避けられたかもしれない戦争～21世紀の紛争と平和～」 ジャン＝マリー・ゲーノ／著  
庭田 よう子／訳
- ◆「1937年の日本人  
～なぜ日本は戦争への坂道を歩んでいったのか～」 山崎 雅弘／著
- ◆「約束の国への長い旅～杉原千畝が世界に残した記憶～」 篠 輝久／著

俳句

「盆踊り」

ふそう俳句会

ふとこころに夜風たつぶり踊り果つ  
スーパールの目玉大玉トマトなり  
横向いて格好気にする茄子の馬

市川 信子  
一色 無音  
伊藤 元

川柳

扶桑川柳クラブ

パソコンのマウス器用に飼い馴らし  
蕾もつ花々といとし小さい庭  
熱帯に住む人は皆この暑さ

前本たかし  
山田津多恵  
石田游多伽

短歌

「玉音放送」

ふそう短歌会

昭和また遠のきたれど甦える  
敗戦知りし玉音放送  
盆踊り櫓太鼓の音聞こえ  
胸は躍れど足の進まず  
今度こそ長く使うと名を書きし  
日傘失せたり陽に嗤わゆる

近藤寿美代  
千田 松枝  
酒井外美江

詩吟

「烏江亭に題す」

杜牧

勝敗は兵家も事期せず  
羞を包み恥を忍ぶは是れ男児  
江東の子弟才俊多し  
巻土 重来未だ知るべからず

「意」 戦の勝負は戦略家でも予測できない。恥辱にたえて再起を計つてこそ真の男子といえる。項羽の本拠地江東の若者達には勝れた人物が多いことだから巻き上げるような勢いで再び攻めてきたとしたら結果はどうなっていたかわからない。

正風流二代目家元 山内 正風